

事故ID	961	表題	ディスプレイの針をプラスチックの入れ物に入れようとして左手中指を刺傷									
事故型分類			区分		事故	発生日	2024/12/24 火 14:10					
地区			大岡山	学院	物質理工学院		系	材料系	発見者（被災者）		M2	
何をしている時に	作業大分類			作業小分類			作業内容					
	研究・実験			準備、片付け			使用済みディスプレイの針の片付け					
何が、どうなって	物大分類			物小分類			起因物名		発生状況（どうなって事故になった）			
	実験器具						ディスプレイの針		入れ物に入れようとして指を刺した			
大事故になったら	想定レベル	1	軽微									
人的被害	人区分	年齢	学院	系		傷病名	負傷部位	入院日数	怪我の状況			
	M2	29才	物質理工学院	材料系		切傷	指	日	左手中指を刺傷			
	内容補足		実験に使用したディスプレイの針を片付けるため、プラスチックの入れ物に入れようとしたところ、誤って左手中指を突き刺し貫通した。									
(参考図表)			http://www.safety-office.eng.titech.ac.jp/hht/PasteDataFor2024DB/961.pdf									
原因	原因大分類			原因小分類			発生原因					安管室 推定
	人的要因			油断			日常的に使い捨てシリンジ・針を使用しており、慣れからの油断があった。					0
	原因補足			HPLCを次に使う学生のために急いで自分のサンプル等を片付けていた。当該学生は日常的に使い捨てシリンジ・針を使用しており、慣れからの油断により起きてしまった。特に使用後に片付けようとした際の事故で、急いでいたこともあり、少し安全に対する意識が低下していた。								
対策	対策大分類			対策小分類			対策					
	ソフト(管理的)対策			注意喚起・集合教育			使用時・使用後の針に関して注意して扱う					
	対策補足			使用時はもちろんのこと、使用後の使い捨ての針に関しても、注意して扱う。								

事故ID	959	表題							
		パストゥールピペットから噴出したクロロホルムが、ナスフラスコ上部に跳ね返り目に入った							
		事故型分類	有害物との接触		区分	事故	発生日	2024/12/13 金 18:20	
		地区	大岡山	学院	物質理工学院		系	応用化学系	発見者（被災者） B4
何をしている時に		作業大分類		作業小分類		作業内容			
		研究・実験		合成、精製実験		ナスフラスコ内の固体にクロロホルムを加える			
何が、どうなって		物大分類		物小分類		起因物名		発生状況（どうなって事故になった）	
		薬品		有機化合物		クロロホルム		パストゥールピペットから噴出したクロロホルムがフラスコ上部に跳ね返って目に入った	
大事故になったら		想定レベル	1 軽微						
人的被害		人区分	年齢	学院	系	傷病名	負傷部位	入院日数	怪我の状況
		B4	22 才	物質理工学院	応用化学系	無傷 (HH)		日	
		内容補足	ナスフラスコ内の固体に、クロロホルムをパストゥールピペットで加えた際、ゴム球を過度に押したため、噴出したクロロホルムがナスフラスコ上部内面に当たって跳ね返り、その一部がメガネの隙間から目に入った。						
(参考図表)		http://www.safety-office.eng.titech.ac.jp/hht/PasteDataFor2024DB/959.pdf							
原因		原因大分類		原因小分類		発生原因		安管室 推定	
		方法		保護具の不適切使用		矯正用のメガネを着用していたが、その上に保護メガネをかけていなかった。		0	
		人的要因		技能未熟		作業にまだ十分慣れておらず、操作対象物と身体との距離が過度に近くなりがちだった。		0	
		原因補足							
対策		対策大分類		対策小分類		対策			
		ソフト(管理的)対策		注意喚起・集合教育		同様のことが再発しないよう、研究室のメンバーに対して安全性に関する指導を行った。			
		個人用保護具		保護めがね		矯正用のメガネを着用している時でも、実験用の保護メガネを重ねがけるするように対応。			
		対策補足							

事故ID	956	表題					液化二酸化炭素ボンベ交換作業中、バルブが開放し全量が放出					
事故型分類		激突・激突され		区分	HH	発生日	2024/10/18 金 13:20					
地区	大岡山	学院	物質理工学院		系	応用化学系		発見者（被災者）	学生学年不明			
何をしている時に	作業大分類		作業小分類		作業内容							
	研究・実験		ガスボンベ取扱		液化二酸化炭素ボンベ（10L容器）の交換							
何が、どうなって	物大分類		物小分類		起因物名		発生状況（どうなって事故になった）					
	実験器具		ガスボンベ・配管類		ガスボンベ		交換用ボンベのバルブが開放し、二酸化炭素が放出された					
大事故になったら		想定レベル		3		重篤						
物損被害	物大分類		損傷物名		被害状況							
	実験器具		真空ポンプ		ボンベが衝突し、カバーが破損							
	内容補足		実験室において、液化二酸化炭素ボンベ(10L容器、7kg充填)の交換作業中、寝かせた状態の交換用ボンベのバルブを踏んでしまい、その衝撃でバルブが開放されてしまった。ボンベからの噴射圧が大きく途中でバルブを閉じることができず、全て放出された。 最初の数秒間は噴射圧の影響でボンベが床の上を移動し、近くに置いてあった真空ポンプに衝突することで停止したが、その衝撃でポンプの樹脂カバーが破損した。 小型の10L容器（約7kg充填、3.5m3相当）であったことと、実験室の気積が大きかったこと(床面積：292m2、気積：1000m3以上) こと、及び直ぐに窓を開放したため、酸欠による症状も現れず、人的被害はなかった。									
(参考図表)		http://www.safety-office.eng.titech.ac.jp/hht/PasteDataFor2024DB/956.pdf										
原因	原因大分類		原因小分類		発生原因							安管室推定
	方法		危険性のある作業方法		交換用のボンベを床に寝かせた状態でボンベキャップを外した。							0
	原因補足		ボンベキャップを外した後、足元を注視しなかったためにボンベのバルブに足を引っ掛けてしまった。									
対策	対策大分類		対策小分類		対策							
	ソフト(管理的)対策		方法の改善		ボンベキャップの脱着はボンベを架台に固定した状態で行う。							
	対策補足		・ボンベを交換する際には、返却するボンベのボンベキャップを用意してから交換作業を開始する。（返却用のキャップが無い場合には、予備の架台を使うなど、キャップを外したボンベが固定されていない状態を作らない） ・使用中ボンベのボンベキャップは、使用中ボンベの周囲に必ず置いておく。									

事故ID	955	表題		実験装置の水槽タンクへの注水後、ホースの先端から水が出続けタンクから水が溢れた					
事故型分類		漏水	区分	事故	発生日	2024/10/04 金 13:55			
地区	すずかけ台	学院	物質理工学院		系	材料系	発見者（被災者）	学生学年不明	
何をしている時に	作業大分類		作業小分類		作業内容				
	研究・実験		注水・水の取扱		水道の蛇口からホースで実験装置のタンクに注水				
何が、どうなって	物大分類		物小分類		起因物名		発生状況（どうなって事故になった）		
	什器、用具		水（実験以外）		水道水		ホース先端から注水され続け、タンクから溢れた		
大事故になったら	想定レベル	1	軽微						
物損被害	物大分類		損傷物名		被害状況				
内容補足		実験室にて当該実験装置使用者が、水槽タンクの水位低下に気づき、水道の蛇口からホースを使って実験装置のタンクに注水した後、ホース先端部(手元)のレバーで水を止め、水が止まっていることを目視で確認して一時退室した。その後、別研究室の学生がたまたま別の装置を使用するために入室し、漏水を発見。ホース先端部から注水され続け、水槽タンクから水が溢れ出ていた。							
(参考図表)		http://www.safety-office.eng.titech.ac.jp/hht/PasteDataFor2024DB/955.pdf							
原因	原因大分類		原因小分類		発生原因				安管室 推定
	方法		危険性のある作業方法		注水の停止した手元のノブのロックが外れていた。（蛇口は全開の状態）				0
原因補足		ホース先端部（手元）のノブで水を止めたが、何かの拍子にノブのロックが外れてしまった。使用者が別の用事により装置がある部屋から30分以上離れていた。 （背景）注水作業は、装置を使用している状態でも可能であったため、使用者が当該実験室において装置を操作している時のみこまめに注水作業を行っていた。そのため、注水作業のON/OFFは手元のレバーで行なっており、水道の蛇口は全開状態のままにしていた。							
対策	対策大分類		対策小分類		対策				
	ソフト(管理的)対策		方法の改善		注水作業後は、必ず蛇口で水を止める。				
対策補足		・マニュアルを改訂する。張紙による注意喚起を行う。 ・装置が使用可能であっても、装置の使用を停止した状態で注水作業を行う。							